



◆◆◆  
特集

## 寄附講座「認知症予防学講座」の設置

### 日本のどこに住んでいても 認知症予防ができる社会を目指して

#### 認知症予防は現代社会の喫緊課題

このたび、小林製薬株式会社の支援を受け、本学医学部保健学科に寄附講座「認知症予防学講座」が設置されました。期間は2022年4月から3年間で、認知症予防ができる社会の実現を目指し、教育（人材育成）、研究や地域貢献に取り組んでいくものです。

病気の予防には、発症予防、早期発見・治療、進行防止の3段階があります。認知症予防においてもこの3つがとても重要です。しかし十数年前まで認知症は「予防できない」といわれ、その研究や取り組みは軽視されてきました。では、なぜ今「予防」なのでしょう。

日本は、世界に類を見ないスピードで高齢化が進行しており、それに伴って認知症患者も急増、2025年には65歳以上の認知症患者数が約700万人（5人に1人）に

なると予測されています。まさに“待ったなし”の状況です。ところが現在の医療では、薬で進行を遅らせることはできても認知症を治すことはできません。だからこそ「予防」が認知症対策の“カギ”となるのです。

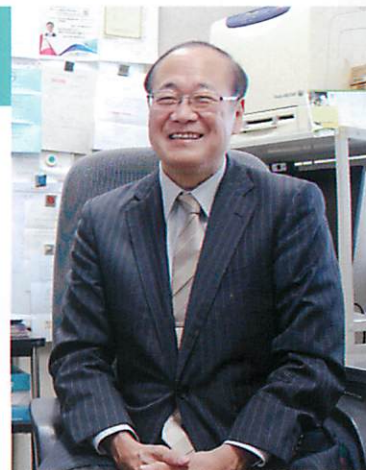
#### 予備軍をいち早く捉え、発症させない

認知症発症の一手手前である「軽度認知障害（MCI）」を発見することができれば、適切な対策をとることで正常な状態に回復、もしくはMCIに留めることが可能です。そうした発症予防に効果的なのが、運動・知的活動・コミュニケーションを組み合わせた「とっとり方式認知症予防プログラム」です。これは、私たちが2004年から琴浦町で行っていた認知症予防の活動が評価され、鳥取県全域へ広めていこうと、行政と連携して研究開発されたプログラムです。県内はもちろん、日本全国へ広げていくことが本講座の役割の一つだと考えています。

認知症は、最初に“もの忘れ”の症状が



とっとり方式認知症予防プログラムの実践風景



うらかみ かつや  
浦上 克哉 寄附講座教授  
医学部保健学科 認知症予防学講座

出ると思われがちですが、実は“臭いが分からなくなる”のが初発症状です。しかし、よほどひどくならないと嗅覚の変化に気付くことはできません。そこで本講座では、高精度かつ短時間で認知症に係る嗅覚機能の低下を判定する検査キットの開発を進めています。また、弱った嗅神経を活性化させて回復へ導くアロマセラピーも既に研究開発しており、さらなる検証を行うとともに、サプリメントや食品なども含めた非薬物療法の研究開発に取り組んでいく予定です。

本講座では、認知症関連疾患に対する専門知識と技術の修得を目指す学生の指導にも力を注いでいます。世の中で活躍できる医療人を輩出することで「認知症は予防できる」という認識がさらに広まり、地域社会に貢献することができればと思っています。



協定書を手に記念撮影

## San'in Spot 山陰スポット

### 米子・加茂川地蔵巡り

医学部キャンパスにほど近い加茂川沿いでは、数多くのお地蔵さまに出会うことができます。このお地蔵さまは日本遺産に登録されている「地蔵信仰が生んだ日本最大の大山牛馬市」のストーリーの一部になっています。お地蔵さんには延命や開運など、それぞれ願いが込められており、人々は江戸時代からお地蔵さんをお願いをするようになりました。

毎年8月には「地蔵盆」と呼ばれる、子供の安全と健やかな成長を願うまつりが行われており、地蔵盆の宵祭りに合わせて行われる「加茂川まつり」では、加茂川沿いにある21カ所のお地蔵さんを巡る「お地蔵さんスタンプラリー」というイベントも開催されています。

